

東京国際金融都市への提案

島田晴雄

2017.5.19.

I. はじめに

II. 東京はアジアの金融中心都市に復活できるか

1. 東京はかつてアジアの金融中心
2. 今は香港、シンガポール、上海
3. 金融市場と金融ビジネスの構造変化
4. 東京は復活できるか

III. 金融都市への戦略変数

1. 最大の戦略変数は税率・税制
2. 税引後の収益力に着目せよ
3. 高度人材の仕事・生活環境も大切

IV. 東京がめざし得る金融都市像

1. 金融都市特区税制の実現を
2. 資産運用の市場インフラの整備
3. Fin Techは有望なフロンティア
4. 象徴としてのFin Techセンター設置を
5. 快適な生活環境のさらなる整備

V. 快適生活環境は国際金融都市の重要基盤

1. 東京の高い国際評価
2. 居住・仕事環境
3. 医療・健康環境
4. 子育て・教育環境
5. 娯楽・魅力(Entertainment)環境

国際金融都市の実現に資する 生活環境等の整備の推進

平成29年 5月19日

アジアヘッドクォーター特区地域協議会会長
島田 晴雄

アジアヘッドクォーター特区地域協議会

○ アジアヘッドクォーター特区は、総合特別区域法(平成23年度)に基づく特区。平成24年度～28年度の特區計画においては、グローバル企業のアジア統括拠点及び研究開発拠点を設置する企業50社を誘致する目標等を掲げ達成。

○ 一方、アジアヘッドクォーター特区地域協議会は、特区計画の推進母体として、ディベロッパー、ジェトロ、金融機関、都区、有識者により構成される法定協議会。これまで特区計画の進行に資する施策等について協議を重ねる(平成23年度から20回開催)。

【構成員】

会 長：島田晴雄 首都大学東京理事長

構成員：

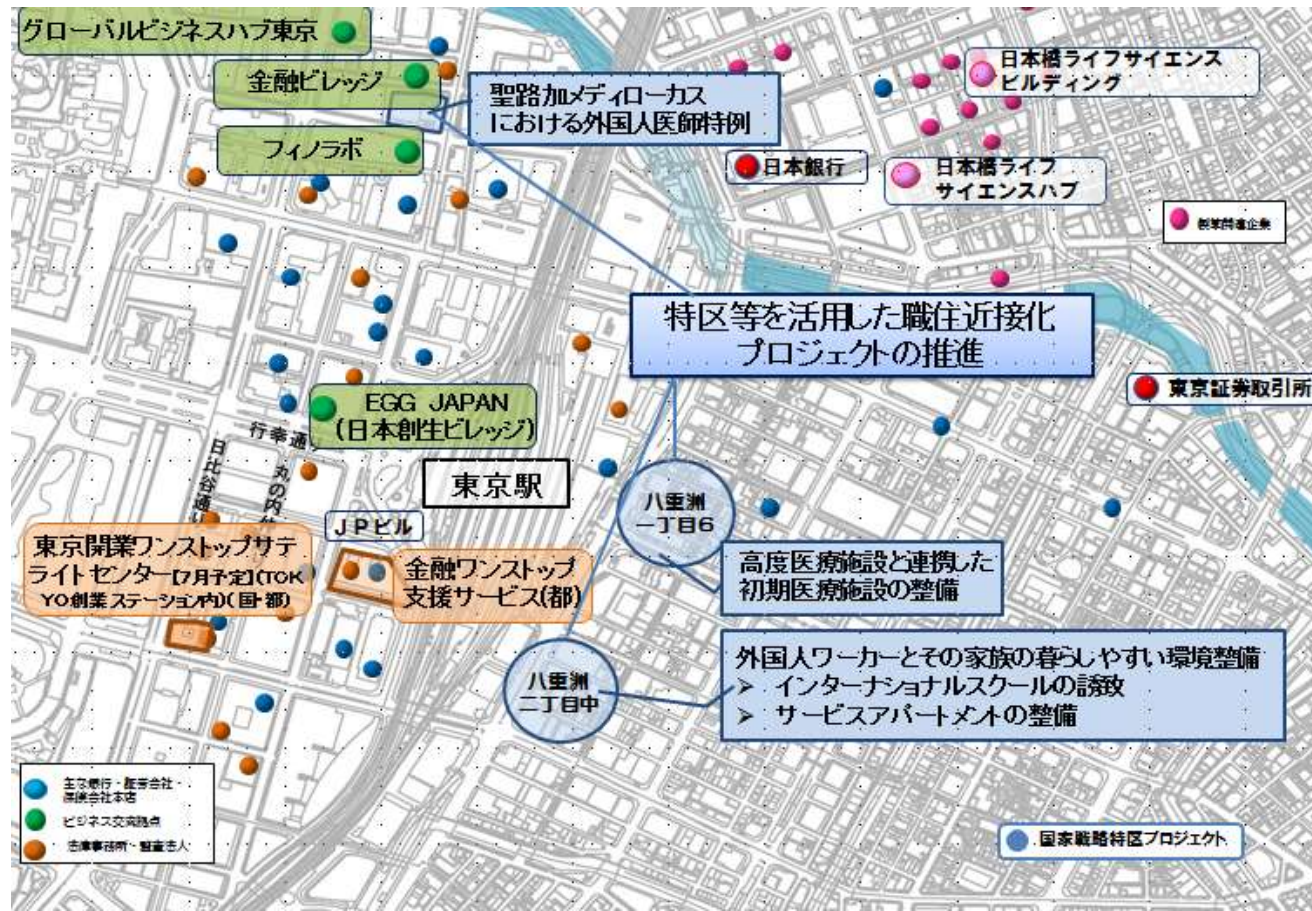
- ディベロッパー：森ビル(株)、森トラスト(株)、三井不動産(株)、三菱地所(株)、住友不動産(株)、(株)フジテレビジョン、東急電鉄(株)、ディ・エグゼクティブ・センター・ジャパン(株)、平和不動産(株)、
- 国関係：(独)日本貿易振興機構
- 自治体：東京都、千代田区、中央区、港区、新宿区、江東区、品川区、大田区、渋谷区、豊島区
- 銀行：(株)日本政策投資銀行、(株)みずほ銀行、(株)三井住友銀行

○ 今回、新規の特區計画(平成29年度～32年度)の策定を機に、政策提言機能の強化を図ることとし、平成29年2月には、島田会長から小池知事に、国際金融都市の実現に資する生活環境整備の推進施策等を盛り込んだ政策提言を提出。



東京駅周辺、虎ノ門・六本木における職住近接化プロジェクトの推進

- 「大手町・丸の内」地区においては、大手金融機関、弁護士・会計事務所、FinTech拠点「フィノボ」等の民間のビジネス交流拠点等の集積ポテンシャルを活かし、既に、都内外資系金融機関225社のうち70社が進出。
- 今後とも、更なる進出強化の観点から、
 - ・「金融ワンストップ支援サービス」(4月～)、「東京開業ワンストップサテライトセンター」(7月～)における行政による手続支援サービス提供に加え、
 - ・サービスアパートメント、インターナショナルスクール等の整備、外国人医師特例の活用等、特区等を活用した職住近接化プロジェクトを推進



○「虎ノ門・六本木」地区においては、外資系金融機関39社が進出しているが、既に、職住近接等外国人にとっても暮らしやすい環境整備が進められている。

○ 今後とも、更なる進出強化の観点から、住宅・サービスアパートメント、インターナショナルスクール、多言語対応の医療施設等、特区等を活用した充実した職住近接化プロジェクトを推進

六本木ヒルズ

- 入居オフィスの約2割が外資系金融機関。レジデンス入居者の約15%が外資系金融、そのうち約7割が港区在勤
- 英語対応可能なコンシェルジュが24時間常駐、レジデンス入居者が利用できるスパ（ジム、プール等）を整備
- 外国人の居住・滞在に適したサービスアパートメントの整備
- 英語対応可能な医療サービスの提供（クリニック、健康相談室※入居者限定）
- インターナショナルスクール等の整備（幼稚園、英語対応可能な保育所）

六本木グランドタワー・泉ガーデンタワー

- 入居オフィスの10%が外資系金融機関。マンション入居者の1/3が外国人、半数が港区在勤。
- 英語対応可能なコンシェルジュが24時間常駐
- 外国人の居住・滞在に適したサービスアパートメント
- レジデンス居住者が無料で使えるジムを整備

虎ノ門四丁目

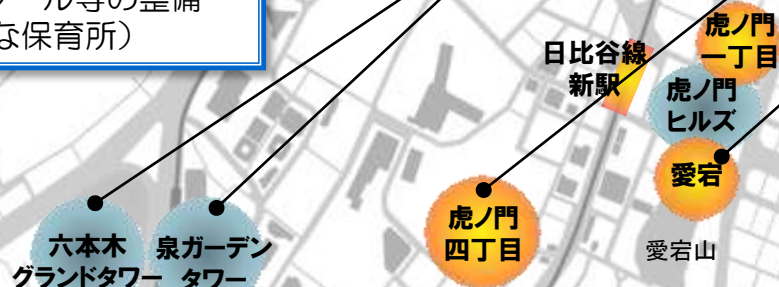
- 多言語の医療サービスの提供（クリニック・健診センター・メディカルフィットネス等）
- 生活する為に必要な煩雑な手続をサポートする生活コンシェルジュ（多言語総合案内）機能の提供
- 外国人のニーズに対応したイベント企画等地域順応支援機能の提供
- 24時間多言語コンシェルジュを備えたホテル・サービスアパートメント

愛宕

- 大型タイプの住戸提供（約460戸）
- 短・中期滞在の外国人ニーズに対応したサービスアパートメントの整備（約160戸）
- フィットネスジム、外国人の受け入れも可能な子育て支援施設
- 24時間対応可能なバイリンガルフロント

虎ノ門・麻布台

- インターナショナルスクールの整備
- 大型タイプの住戸提供（約80戸）
- 短・中期滞在の外国人ニーズに対応したサービスアパートメントの整備（約160戸）
- 外国人の多様なライフスタイルに対応したサービスの提供（24時間コンシェルジュ、ジム等）
- 多言語対応の医療施設の整備



外国人が外国語で安心して受診できる医療体制の整備推進

○ 現在、東京駅周辺、虎ノ門・六本木地区において、民間事業者による高度医療機関と連携した初診施設の整備が進められている。

1. 六本木ヒルズ、愛宕グリーンヒルズにおける取組

六本木ヒルズレジデンスと愛宕グリーンヒルズフォレストタワーに、慈恵医大病院と連携した居住者専用の健康相談室を設置。医師と24 時間待機するバイリンガル対応の看護師が、日常の健康管理から体調不良時の対応まで、居住者とそのご家族の健康をサポート。

→ 今後は、虎ノ門・麻布台地区プロジェクトにおいても、多言語対応の医療施設を整備予定。

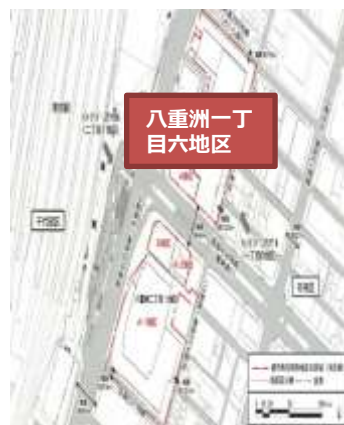
2. 東京駅前、虎ノ門、六本木地区での国家戦略特区プロジェクトにおける展開

(1) 八重洲一丁目六地区における取組

高度医療施設と連携した初期医療施設の整備

○ 交通結節拠点としての立地特例を活かし、外国人の初期診療や予防医療等を実施する医療サービスの窓口を提供（八重洲一丁目6 地区で約2,500㎡）

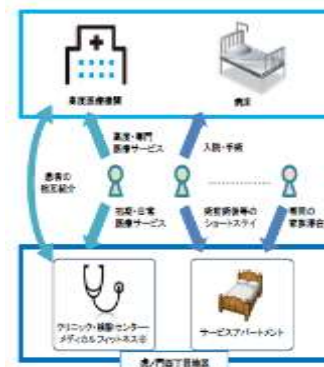
○ 国際的な医療機能評価（JCI）認証を取得している高度医療に対応した大学関連病院のサテライトを誘致



(2) 虎ノ門四丁目における取組

多言語ワンストップ医療機能

○ 外部の高度医療機関等と連携した多科目対応クリニックモール及び高度医療を補完するサービスアパートメントを活用した術前術後等の療養滞在



＜連携イメージ＞



○ さらに、特区の外国人医師特例を活用して、聖路加国際病院、聖路加メディローカス内に初診体制を整備する取組が開始されたところ。

＜特例内容＞

- 4 か国(英、米、仏、シンガポール)の外国人医師は、二国間協定により、英語の医師国家試験に合格すれば医師免許が付与、自国民に対してのみ診療が可能。
- 特区内の医療機関であれば、自国民に限らず外国人一般に対する診療が可能になる。

＜聖路加国際病院、聖路加メディローカスにおける取組＞

- 2016年9月1日より、アメリカ人医師による外国人患者の診療を開始。
- 現在、週2日、外国人医師が勤務
 - ・うち1日は、聖路加国際病院にて、初診の対応、必要時適切な専門診療科への案内を担当
 - ・うち1日は、聖路加メディローカスにて、予約制の診療を担当



※今後、慶應義塾大学病院でも特例を活用した診療を開始予定

高水準プログラムを提供するインターナショナルスクールの整備推進

○ 現在、都内において、都認可のインターナショナルスクールは12校。いずれも、国際機関等による認証校。

＜都内の主なインターナショナルスクール＞

地域	学校名	特区内	資格	対象				生徒数
				保/幼	小	中	高	
港区	アメリカンスクール・イン・ジャパン アーリーラーニングセンター	✓	WASC	✓	-	-	-	約130名
	西町インターナショナルスクール	-	WASC・CIS	✓	✓	✓	-	約390名
江東区	K.インターナショナルスクール東京	-	IB・CIS	✓	✓	✓	✓	約600名
世田谷区	セントメリーズインターナショナルスクール	-	IB・WASC・CIS	-	✓	✓	✓	約900名
	清泉インターナショナルスクール	-	IB・WASC・CIS	✓	✓	✓	✓	約650名
	ブリティッシュ・スクール・イン・トウキョウ昭和	-	ISI	-	✓	✓	✓	約385名
渋谷区	聖心インターナショナルスクール	-	WASC・CIS	✓	✓	✓	✓	約550名
	ブリティッシュ・スクール・イン東京	✓	ISI	✓	✓	-	-	約350名
練馬区	ニューインターナショナルスクールオブジャパン	-	MSA・CIS	✓	✓	✓	✓	約350名
23区外	アメリカンスクールインジャパン	-	WASC	✓	✓	✓	✓	約1,400名
	クリスチャンアカデミーインジャパン	-	WASC・ACSI	✓	✓	✓	✓	約200名
	東京国際フランス学園	-	バカロレア	✓	✓	✓	✓	約1,215名

○ これらに加え、現在、東京駅前・虎ノ門地区の特区プロジェクトにおいて、国際機関の認証又は海外政府の認定を受け、高水準のプログラムを提供するインターナショナルスクール誘致の取組が進められている。

八重洲二丁目中地区における取組

- 東京駅に直結する約7,700m²のインターナショナルスクールを低層部に整備
- 日本橋エリアの老舗と連携した文化体験や区立校・地元との交流を図り、国際交流の創出を検討

※その他の取組

- ・国際空港や地方都市を結ぶ大規模バスターミナル
- ・東京駅と周辺市街地を結ぶ歩行者ネットワークの整備
- ・サービスアパートメント(多言語対応、コンシェルジュ、フィットネス)



虎ノ門・麻布台地区における取組

- 都心に都内最大級約14,000m²のインターナショナルスクール(生徒数:最大約1,200名を想定)を低層部に整備
- 約1,800m²の運動場を地区内に整備
- 周辺の学校や認可保育園等との交流活動や、バザーの開催等による地域住民等との文化交流を推進

※その他の取組

- ・住宅、サービスアパートメント
- ・多言語対応の医療施設
- ・24時間コンシェルジュ、ジム 等



地区特性を活かしたエンターテインメントの展開

● 渋谷エリア

音楽、演劇を中心に、クラシックからポピュラー、ハイカルチャーからサブカルチャーまで、大小多様な、劇場ホール・ライブハウスが集積。渋谷ヒカリエなどの大規模複合施設から、ストリートカルチャーを育む流行発信型店舗、ナイトシーンを彩るクラブ、飲食店が集積。

⇒渋谷駅中心地区の再開発を契機に、昼夜、国籍を問わず、多世代が集い、文化やファッションの今を感じ、自由に楽しむ、エンタテインメントシティを目指す



渋谷年末カウントダウン



渋谷音楽祭



(出所) 「劇場、コンサートホール」、「博物館、美術館」、「伝統文化施設」は『Let's ENJOY TOKYO (<http://www.enjoytokyo.jp/>) 』の掲載施設のうち、現時点で営業していること、その立地が確認できたものが対象。
「ナイトライフ」は『東京クラブマップ』に掲載されているナイトクラブやラウンジのうち、現時点で営業していること、その立地が確認できたものが対象。



Bunkamura

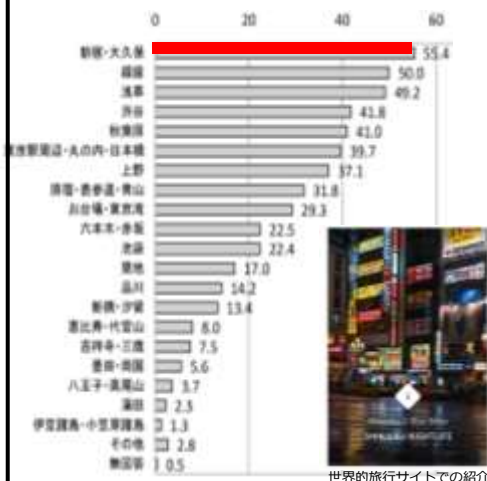


東急シアターオーブ(ヒカリエ内)



● 新宿エリア（歌舞伎町）

海外からの認知度・人気の高さ



新宿エリアが
外国人訪問率1位

大衆娯楽文化資源・歴史



ホール・劇場・伝統芸能関連施設・ライブスペース分布
(ホール・劇場・伝統芸能関連施設・ライブスペース基礎調査
(東京都生活文化局)より作成)

小規模ホール・
劇場等の集積

景観の変化を楽しみながら 安全に歩けるまちの基盤



- ・石川栄耀盛り場思想の街づくり
- ・平日16時以降、車両通行禁止
- ・屋外広告物活用による新たなエンタメシティ歌舞伎町の創出(区景観まちづくり計画)

歌舞伎町TMO エリマネの実践



道路・広場等の公共空間
を活用した多様な
イベント開催の実績

東京を代表するインバウンドに人気の高い“歌舞伎町”を、「エンターテインメント&エリマネジメント」により、グローバルに通用するダウタウン（繁華街）として強化

■ 新宿ミラノ座跡地再開発

- ・公共空間との一体的整備によるエンターテインメント拠点の創出
- ・都市観光の拠点形成に資する宿泊施設の整備



● 六本木エリア

大型オフィスビルに多くのIT企業が入居し、ITコミュニティを形成。六本木エリアは国際色豊かで、多くのナイトクラブのほか、ビジネスやエンターテインメント、アート、ハイセンスなレストランやショップなどが集積している。

国立新美術館、森美術館やサントリー美術館といった大規模な美術館が集まっているのも特徴である。

→ 六本木アートナイトや美術館3館が連携する六本木アート・トライアングル、東京国際映画祭、クリスマスイルミネーション等、すでに多くの外国人が訪れている。



六本木アートナイト

生活の中でアートを楽しむという新しいライフスタイルの提案と、大都市東京におけるまちづくりの先駆的なモデル創出を目的に、2009年よりスタート。



ヤノベケンジ (2009年)
「ジャイアント・トラヤン」



カンパニー・デ・キダム (2016年)
「FierS a Cheval 〜誇り高き馬〜」



草間彌生 (2012年)
「ヤヨイちゃん、リンリン」

六本木アート・トライアングル

国立新美術館、森美術館、サントリー美術館の3館は、新たなアートの拠点を目指し、地図上で三角形を描く「六本木アート・トライアングル」として様々な連携に取り組んでいる。



クリスマスイベント

イルミネーション (けやき坂) や、クリスマスマーケット等



東京国際映画祭



盆踊り



(出所) 「劇場、コンサートホール」、「博物館、美術館」、「伝統文化施設」は『Let's ENJOY TOKYO (<http://www.enjoytokyo.jp/>)』の掲載施設のうち、現時点で営業していること、その立地が確認できたものが対象。

「ナイトライフ」は『東京クラブマップ』に掲載されているナイトクラブやラウンジのうち、現時点で営業していること、その立地が確認できたものが対象。

● 池袋エリア

「国際戦略」として、アート・カルチャーの魅力で人や産業を惹きつける(企業誘致・MICE誘致等)まちづくりを目指す。東京芸術劇場、「あうるすぽっと」をはじめ多くの劇場や、マンガ・アニメなどのサブカルチャー関連施設が集積。東京芸術祭、東京アニメアワードフェスティバルなどの国際的な文化プログラムも展開されている。

→今後、2020年の東京オリンピック・パラリンピックまでに、世界中の人々を惹きつける東京の魅力の一つとして賑わいを創出する。

※2019年の「東アジア文化都市」に立候補

国際的文化プログラムの展開

東京芸術祭
「大田楽」南池袋公園



マンガ・アニメ文化の発信



- 劇場、コンサートホール
- 博物館、美術館
- ナイトクラブやラウンジ等のナイトライフ施設
- 相撲、能、狂言等の伝統文化施設

Hareza(ハレザ)池袋

豊島区庁舎跡地等を活用し、「国際アート・カルチャー都市」構想の実現に資する8つの劇場による国際的な文化情報発信、新たな賑わい創出拠点を形成。年間来場者数1,000万人を想定。

→宝塚歌劇、オペラ、バレエ、ミュージカル、歌舞伎、日本の伝統芸能の公演等を行い、国内外の来訪者を誘引(2019年11月柿落とし、2020年7月オフィス棟を含むグランドオープン)



オフィス棟 新ホール棟 新区民センター



4つの公園をつなぎ街全体を「劇場化」

2020年までに池袋周辺の特徴ある4つの公園を整備。エリア全体の回遊性を高め、誰もが参加できる多彩なイベントを開催。池袋西口公園は屋外劇場としてリニューアル。隣接する東京芸術劇場と連携し、新拠点に変貌。

中池袋公園



南池袋公園

東京芸術劇場

● 上野・浅草・両国エリア

上野は、国立西洋美術館等の多数の美術館や博物館などがある、文化の香り漂うエリア。また、浅草駅周辺には毎年正月に歌舞伎が行われる浅草公会堂等、劇場が多く集積。両国駅周辺には相撲を行う両国国技館、大規模な歴史博物館である江戸東京博物館など、日本の歴史や伝統に多く触れることができるエリア

→今後、日本文化の発信と外国人観光客の拡大を目指す。



浅草六区エリアマネジメント「下町のタイムズスクエア」

今後、国家戦略特区道路法特例の活用により、パフォーマンスやイベントを楽しみながら休憩できる「おもてなし」の空間を浅草六区ブロードウェイにおいて目指していく。



(浅草六区エリアマネジメント協会)

- 劇場、コンサートホール
- 博物館、美術館
- ナイトクラブやラウンジ等のナイトライフ施設
- 相撲、能、狂言等の伝統文化施設

東京金融賞についての提案

島田晴雄

2017年5月19日

I. 金融賞創設への関心

II. 金融賞の性格

1. 学術的な賞か社会的な賞か
2. 東京都の金融賞に求められる役割

III. 現代資本主義の問題と金融の新たな役割

1. 現代資本主義の限界と修正
2. 現代金融資本主義の長所と短所
3. 企業に求められる社会的役割
4. 金融の新たな役割

IV. 東京金融賞が拓く新たな地平

1. ESG投融資とその担い手
2. 東京が志向する新たな価値観
 - (1) Safe city(安全)
 - (2) Diversity(多様性: 健康、仕事、教育)
 - (3) Smart city(革新と環境)
3. 東京の価値観を具現する創造的挑戦者(Creative venture)を表彰